

全社横断視点の戦略推進体制

(2018年7月1日現在)

当社は全社横断的な戦略推進のため、2011年よりチーフオフィサー制度を導入しています。ビジネスユニットやグループ会社などの枠を超えて取り組むべきテーマに対してチーフオフィサーなどの責任者を配し、全社的課題の解決に取り組んでいます。ここでは、全社横断視点で戦略を立案・実行する立場である副社長、チーフオフィサー、中央研究所長およびビジネスイノベーションユニット長から、それぞれの担当領域における課題や、その解決に向けた取り組みを説明します。



執行役員副社長

石黒 憲彦

プレゼンスとスピードを向上し、社会価値創造型企業としてグローバルで成長を実現

私は、NECがグローバルな社会価値創造型企業としてこれまで以上に世界の課題解決に貢献し、成長できるよう、国内外の政府、自治体、公的機関、国際機関、現地企業への渉外・営業活動を従来にも増して積極的に行い、NECのプレゼンスのさらなる向上に努めてまいります。同時に、NECがよりスピーディーにお客さまの価値最大化を実現できるよう、組織文化の改革に取り組んでまいります。



執行役員副社長
CFO
(チーフフィナンシャルオフィサー)

森田 隆之

2020年度の営業利益率5%の実現

今のNECにとっての最大の課題は、収益性の強化です。私はCFOとして2020中期経営計画の目標である営業利益率5%の実現を確実なものとするため、①固定費の最適化の断行、②明確な時間軸を持った課題事業対策の遂行、③追加収益を生むためのM&Aを含む成長投資の実行、の3つをしっかりと進めてまいります。



執行役員副社長

熊谷 昭彦

「攻め」のカルチャー

さまざまな情報が飛び交う今日は、従来とは次元の違うスピーディーな対応が必要であり、プロアクティブな取り組みによって常に一步先を目指す姿勢が重要です。特に、グローバルでの厳しい競争と多様化するニーズに応えるためには、お客さまからの信頼を待つのではなく、我々から積極的に新しいソリューションを提案しなければなりません。リスクを恐れず「攻め」の姿勢で社員一丸となって勝負する、そんなカルチャーづくりに貢献します。

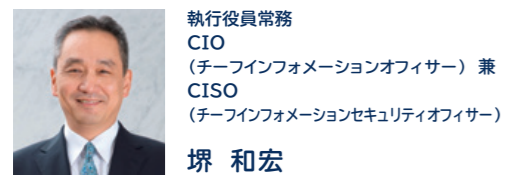


執行役員常務
CTO
(チーフテクノロジーオフィサー)

江村 克己

広く技術を捉え、次代の事業成長の核となるコンピタンスを創る

私は長期的視野で社会と技術の動向を読み、NECの次なる成長に資する技術戦略を多面的に立案し、実行します。AIやデータを活用した事業では、技術コンピタンスに加え、社会受容性、知財、標準、ルールを総合的に捉えて競争優位を創りこみます。NECの持つ技術の強みを梃子に、お客さま、アカデミア、ベンチャーなどとの連携も強化します。これらの活動を主体的に進め、NECが提供する社会価値の最大化につなげます。



執行役員常務
CIO
(チーフインフォメーションオフィサー) 兼
CISO
(チーフインフォメーションセキュリティオフィサー)

堺 和宏

デジタル経営基盤の確立

デジタル化によってビジネスを可視化し、その情報を資産として継続的なビジネス改革を起こす企業でなければ生き残っていけない時代が到来しようとしています。私はCIO兼CISOとして、ビジネスプロセスのデジタル化やワークスタイル改革を推進し、NECのギアチェンジを支えるデジタル経営基盤を確立します。



執行役員常務
CSO
(チーフストラテジーオフィサー) 兼
CHRO
(チーフヒューマンリソースズオフィサー)

松倉 肇

2020中期経営計画をやりきる

2020中期経営計画を不退転の覚悟で達成し、ステークホルダーのみなさまの信頼を回復することが私の第一の使命と考えています。達成に向けては人事評価制度・報酬制度の改革などをとおしてNECのカルチャー変革を成し遂げることが最重要であり、そのため事業戦略と人事戦略を一体化させて、強いビジネスモデルづくりと人材づくりを加速させます。



執行役員
CMO
(チーフマーケティングオフィサー)

榎本 亮

デジタル時代に「なくてはならない存在」としてNECブランドを確立

信頼できる、親しみやすい、といった従来のNECのブランドイメージを大切にしつつ、デジタルが社会の隅々まで浸透する時代に備え、NECはイノベーションの力で「安全」「安心」「効率」「公平」な社会を実現する立場を貫きます。私は、NECがあらゆるステークホルダーにとって「なくてはならない存在」であると認知・支持されるように、市場の動きやお客さまの期待にいち早く応えるEnd to Endのマーケティングを推進し、NECの変革を支えていきます。



執行役員
中央研究所担当

西原 基夫

骨太事業を創出する新たなグローバル研究開発に挑戦

AI、IoTにより劇的な社会変化が進む中、中央研究所は次の骨太事業を創出し、今後の事業を牽引する責任があります。グローバルな研究拠点や世界トップクラスの研究人材、グローバルな事業パートナーとの共創などをとおして、ダントツの技術力、事業検証、必要な共通基盤を提供します。エコシステム型研究開発への変革により、圧倒的なインパクトのあるOne-to-Manyソリューションの鍵となる技術を創出していきます。



執行役員
CCO
(チーフコンプライアンスオフィサー)

小幡 忍

コンプライアンスを国内外のグループ社員に一層深く浸透させる

NECグループでは、従来より、コンプライアンスを経営上の重要課題のひとつとして捉えています。経営層が常々コンプライアンスが最優先である旨を発信し、さまざまな施策を講じることで社員への意識づけを進めています。私はコンプライアンスをグループ社員に一層深く浸透させるため、より実効性の高い施策を検討・実施し、コンプライアンスをNECグループの企業文化として定着させていきます。



執行役員
ビジネスイノベーションユニット担当

藤川 修

最新技術を活かした顧客価値創造により事業開発力を強化する

これまで、NECには市場から高く評価される最新技術がありながら、スピード感を伴った事業開発につながっておらず、成長力を十分に活かしていませんでした。私は、既存の枠組みや常識にとらわれず、さまざまな可能性を追求して新たな事業機会を創出し、社内外のイノベティブな人材を巻き込みながら、コア技術の事業化の推進による「成長」を実現していきます。



執行役員
CSCO
(チーフサプライチェーンオフィサー)

清水 茂樹

サステナブルなグローバルサプライチェーンを実現

私は、パートナーのみなさまと共創しながら、当社の技術やソリューションをお客さまに価値として届けるまでのサプライチェーン全体の効率化・最適化に注力します。そして、品質と安全性のさらなる向上に寄与し、環境に配慮したサステナブルなサプライチェーンを実現することで、グローバルでの事業拡大に貢献します。

当社の執行役員に関する詳しい内容は、下記URLをご覧ください。

<https://jpn.nec.com/profile/corp/executives/svp.html>